

オンライン授業のガイドライン (2020年4月7日版)

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大にともない、花園大学では4月8～21日の対面授業を行わないことが決定されました。この間の授業については、22日の対面授業再開後に補講や課題という形も考えられますが、今後の情勢が不透明なこともあり、大学としてはオンライン（インターネット経由）授業を積極的に導入していきたいと考えております。

本文書は、本学においてオンライン授業を行うためのガイドラインを提供するものです。すでにオンライン授業の経験がある方にも、知っていただきたい内容が含まれていますので、ご一読いただければ幸いです。

本ガイドラインには不十分な点も多いと思われませんが、すでに開講しているということもあり、このように提供するものです。先生方からのフィードバックにより、随時更新していきたいと考えておりますので、ご意見をお寄せください。

本ガイドラインについての問い合わせ先：学務部長 師茂樹 (s-moro@hanazono.ac.jp)

オンライン授業の種類と方法

対面授業ができない期間のオンライン授業については、以下の表¹のような方法が考えられます。教員の負担や学生のインターネット環境などを考えた場合、講義系の授業であれば、

- タイプ0/1のみ
- タイプ2とタイプ0/1の組み合わせ

が現実的であろうと思われませんが、個々の授業の形態に応じて、適宜取舍選択をお願いいたします。

なお、受講者が最終的に確定するのは4月16日です。それ以前にも学生ポータル等で配信をすることはできますが、配信漏れがないよう、4月16日以降に必ず再配信等をお願いいたします。

¹ 上智大学において作成された表を参考にした。

タイプ	内容	方法	メリット・デメリット
0	学生ポータル ² のみによる授業	<ul style="list-style-type: none"> ・学生ポータルなどで課題や講義資料などを配信する (PDF など)³。 ・一定期日のうちに、教員が指定した方法⁴で、受講生に課題 (レポートなど) を提出させる。 ・必要に応じて、提出された課題をフォローする (レポートの添削など)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○非常に手軽 ○学生ポータルは全学生が使える (はず) △メールをほとんど使ったことがない (添付ファイルなどを知らない) 学生が多い ×自宅に PC がなく、ワープロなどが使えない学生がいる
1	学生ポータル+C-Learning ⁵ の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・学生ポータルなどで課題や講義資料などを配信する (PDF など)⁶。 ・C-Learning のアンケート機能⁷を使って、一定期日のうちに回答させる。 ・必要に応じて、提出された回答に対するフォローを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○比較的手軽 ○C-Learning は全学生が使える (はず) ×1回生は未経験 ○PC やワープロがなくてもよい ×複雑な課題は出せない
2	オンライン用教材の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・PowerPoint のスライドに音声を録音した動画を作成 ・完成後、YouTube など限定公開し、アドレスを受講生に配信 ・必要であれば、学生ポータルなどで課題や講義資料な 	<ul style="list-style-type: none"> ○自作が比較的容易。 ○特別な機材等が必要ない (PowerPoint のスライドとマイクがあればできる) ○比較的データ量が小さい ○教員の顔が出ない △それなりに練習が必要

² 学生の中には、学生ポータルと C-Learning を混同している者もいるようです。指示を出す場合にはご注意ください。

³ 学生の連絡先を把握している場合は、学生ポータル以外の方法を使ってもかまいません。

⁴ 学生ポータルでは、学生からのファイル送信ができません。メールなどの方法を指示してください。

⁵ 学生の中には、学生ポータルと C-Learning を混同している者もいるようです。指示を出す場合にはご注意ください。

⁶ 学生の連絡先を把握している場合は、学生ポータル以外の方法を使ってもかまいません。C-Learning ではファイルを送信することができませんので、ご注意ください。

⁷ C-Learning の使い方についてはオンラインマニュアルをご覧ください。また、C-Learning を開発している会社のサポートデスク (受付電話番号 055-955-4121、フリーダイヤル 0120-802-806、メールアドレス support@netman.co.jp) もご利用いただけます。

		<p>どを配信する (PDF など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、タイプ 0/1 によって学修達成度を評価する。 	<p>×視聴できない学生がいる可能性はある</p>
3	授業動画作成	<ul style="list-style-type: none"> ・自室・教室で、カメラに向かって授業を行う。 ・必要であれば、簡単な動画編集 (最初と最後のトリミング、音声の調整など) を行う ・完成後、YouTube などでも限定公開し、アドレスを受講生に配信する。 ・必要であれば、学生ポータルなどで課題や講義資料などを配信する (PDF など)。 ・必要に応じて、タイプ 0/1 によって学修達成度を評価する。 	<p>○慣れれば自作が比較的容易 (アシスタントがいればさらに容易に)。</p> <p>△カメラ付きの PC やスマートフォンがあればできるが、それなりの映像にする場合には機材が必要 (照明など)</p> <p>△それなりに練習が必要</p> <p>×データ量が多い</p> <p>×視聴できない学生がいる可能性はある</p>
4	講義のライブ配信	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTube Live などのアカウントを取得し、ライブ配信の設定をする。 ・受講生にライブ配信に参加するための情報を送る。 ・必要であれば、学生ポータルなどで課題や講義資料などを配信する (PDF など)。 ・予定された日時に、自室・教室等でライブ配信を行う。 ・必要に応じて、タイプ 0/1 によって学修達成度を評価する。 	<p>○対面授業に近い</p> <p>△カメラ付きの PC やスマートフォンがあればできるが、それなりの映像にする場合には機材が必要 (照明など)</p> <p>×スキルが必要 (アシスタントも欲しい)</p> <p>×データ量が多い</p> <p>×視聴できない学生がいる可能性はある</p>
5	オンライン会議システム	<ul style="list-style-type: none"> ・Skype ビデオ会議や Google ハングアウトなどのアカウントを取得し、オンライン会議の設定をする。 ・受講生にオンライン会議に 	<p>○対面授業に近い</p> <p>△カメラ付きの PC やスマートフォンがあればできるが、それなりの映像にする場合には機材が必要 (照明など)</p>

		参加するための情報を送る。 ・必要であれば、学生ポータルなどで課題や講義資料などを配信する (PDF など)。 ・予定された日時に、自室・教室等でオンライン会議を行う。 ・必要に応じて、タイプ 0/1 によって学修達成度を評価する。	×スキルが必要 (アシスタントも欲しい) ×データ量が多い ×参加できない学生がいる可能性
--	--	---	---

オンライン授業にあたっての注意点

全般

- オンライン授業をするにあたっては、教育の質保証の観点から、15 週分 (1 単位 45 時間) の学修時間を確保するよう努めてください。簡単すぎる課題 (“今週は教科書の 13~15 ページを読むこと”など)、短すぎる授業動画では、学修時間が確保できません。
- 繰り返しになりますが、受講者が最終的に確定するのは 4 月 16 日です。それ以前にも学生ポータル等で配信をすることはできますが、配信漏れがないよう、4 月 16 日以降に必ず再配信等をお願いいたします。
- タイプ 0/1 を採用する教員が多いと、学生には大量の課題が届くことになります。C-Learning のアンケート機能などを用いて学生の意見を聞き、課題の量を調整するなどの配慮をお願いいたします。
- 対面授業とは異なり、オンライン授業では、原則として他者が著作権を持つ著作物の二次利用はできません (パスワードなどでアクセスが限定されていたとしても、利用できません)。ただし、文化庁がオンライン授業での著作物の扱いを対面授業と同じにするという報道がなされており⁸、論文や新聞記事程度であれば配信が可能となる可能性は高いです。
- 現時点では図書館が使えませんので、図書館の蔵書を前提とした課題は出さないでください。書籍の数は限られますが、現在、図書館で契約している電子書籍 ([Maruzen eBook Library](#)、[紀伊国屋書店 KinoDen](#) など) を、学生・教員が学外から使えるように調整中です (使えるようになれば、先生方の希望により、電子書籍を購入する予定です)。

タイプ 0・1

- 課題の配布については著作権侵害がないようお願いいたします。たとえオンライン授業での著作物の扱いが緩和されても、書籍一冊を丸ごと PDF にして配信するような

⁸ 「著作物教材ネット配信可に 家庭学習向け、年度内は無償—文化庁：時事ドットコム」
<https://www.jiji.com/jc/article?k=2020040600637>

ことは無許可ではできませんので、ご注意ください。

- 学生が持っている教科書などを使って、課題を出すことはもちろん可能です。
- 学生ポータルには、受講生に対する配信機能はありますが、受講生から課題を受け取る機能はありません。メールなどでの受け取りをお願いいたします。受講者が多い場合には、別途、受取専用のフリーメールを作成することで、後の作業が比較的容易になるかと思えます。

タイプ2・3・4

- 学生がスマートフォンしか持っていない場合、映像とPDFなどの資料を同時に見ることができません。動画作成時にはご配慮ください。
- 様々な理由でスマートフォンが使えない学生、障害を持つ学生、高齢者の学生など、動画を見られない受講生がいる可能性があります。ご配慮ください。

タイプ5

- オンライン会議システムを用いる場合、学生の顔だけでなく、背景（部屋など）が他の受講者に配信されます。学生のプライバシーに配慮するようお願いいたします。
- 様々な理由でスマートフォンが使えない学生、障害を持つ学生、高齢者の学生など、参加できない受講生がいる可能性があります。ご配慮ください。

授業形態別の実施方法例

講義科目

- タイプ0/1によって、講義資料や課題を配信する。もしくは、タイプ2/3/4によって、講義動画や課題を配信する。
 - 動画の場合、学生の集中力が続かないので、1本90分の動画ではなく、10～30分程度の動画を複数本作る方がよいと言われています（たとえばJMOOCでは、1コンテンツ10分程度、複数コンテンツで1回の授業を構成しています）。他の課題なども組み合わせることで学修時間を確保できるのであれば、1日分の講義動画の合計時間が90分以下でもかまいません。
- クイズ、課題、レポートなどにより学修達成度を評価する。

語学・ゼミ・グループワークなど、双方向的なやりとりが必要な科目

- タイプ5を用いる。

※ その他の授業形態に関しては、現在検討中です。

Q&A

教員に対して、オンライン授業用のパソコンやウェブカメラは大学から支給されるのか？

- 現在のところ、その予定はありません。

オンライン授業用のソフトウェアは、大学から支給されるのか？

- タイプ5用の Google ハングアウト、Skype などは無料で使用することができます。

オンライン教材の作成方法がわからない。誰かに支援してほしい。

- 学生ポータルのマニュアルは、本ガイドラインと同時に配信しております。
- C-Learning のアンケート機能の使い方については、オンラインマニュアルをご覧ください。また、C-Learning を開発している会社のサポートデスク（受付電話番号 055-955-4121、フリーダイヤル 0120-802-806、メールアドレス support@netman.co.jp）もご利用いただけます。
- タイプ2の動画作成をするためのマニュアルを提供予定です。
- マニュアルとは別に、タイプ2・3の動画の作成をサポートするための仕組みを準備中です。詳しくはお問い合わせください。
- オンライン教材を作るためのマニュアル、動画などが、多く公開されています。
 - 例) 同志社大学・小原克博教授による「授業のための動画作成——急場をしのぐためのスイスイ動画作成術」(<https://youtu.be/as4OOT5bJeY>)、「授業のための動画作成2——急場をしのぐためのスイスイ動画作成術」(<https://youtu.be/36s20U-elzE>)など、ウェブ上に参考になる情報がたくさんあります。
- タイプ4・5については、大学としてサポートする予定はありません。

パソコンやネット環境が整っていない学生がいるが、その対処方法は？

- プリンタがない学生は、コンビニエンスストアのプリントサービスを使用することができますので（有料）、必要に応じてご指導ください。
- 大学で契約している Microsoft Office 365 は、全学生が無料で使用することができます。
- 学務課で印刷した課題を配布し、提出物を受け取ることは可能ですが、たくさんの課題を学務課で対応することはできません。できる限り、先生方と学生とのあいだで直接やり取りをしてください。
- 学生がオンライン授業をうけやすくなるよう、国や企業などが様々な施策を行っております。ただし、学生の金銭的負担が過度に大きくならないよう、データ量などについてご配慮いただければ幸いです。

YouTube のアカウントは大学でなく教員個人のアカウントを取得すべきか？

- はい。個人のアカウントで動画の配信を行なってください。

オンライン授業を行う際、出席をとる必要はあるか？

- 必要に応じて、課題の提出などによって出欠確認を行なってください。
- 出席の報告義務がある授業については、1回の授業に対して1回の課題を出すなど、15回分の授業をしたということが確認できるようにしたうえで、課題の提出などによって出欠確認を行なってください。